



モッテコイ 諏訪小魂！

～ 本物の【あかぎの心】を發揮しよう ～

長崎市立諏訪小学校 校長 山崎 直人

平和希求の心をもって

平和祈念集会をリモートで行いました。感染拡大と熱中症を防止するためです。5年生が原爆資料館見学で学習した内容の発表も事前録画したものを各教室で共有しました。また、各学年の平和宣言、「折り鶴」の合唱、そして11時2分の黙祷も教室で行いました。本来なら全員集まって平和への祈りを捧げたかったのですが、仕方ありません。思いや願いは変わりなく真剣で深いものがあったと信じます。子供たちへ次のような話をしました。

今から77年前の今日、8月9日、11時2分に、一発の原子爆弾が長崎の空で爆発しました。一瞬にして7万人以上の人の命が奪われ、それ以上の方が大けがを負いました。爆風により、建物は倒れ、自然は破壊され、町は炎に包まれました。絶望と悲しみが長崎のまちをおおい尽くしたのです。

77年前の日本は「戦争」をしていました。戦争とは国と国とが戦うこと、命を奪い合うこと、殺し合うことです。戦争だったから原子爆弾が使われても仕方がなかった、そうでしょうか。そんなことはありません。原子爆弾という核兵器は決して使われるべきではありませんでした。けれどその核兵器が、世界中にはたくさん存在します。使ってはいけないはずの兵器が、今でも作られているのです。核兵器を地球から1発残らずなくしてしまわない限り、長崎の悲劇が繰り返される可能性があるといえます。

そもそも「戦争」がなかったら、原子爆弾が使われることはなかった。それは事実です。戦争そのものをなくすることが一番大事です。けれど、皆さんも知っているようにこの地球上で今この瞬間も戦争が続いているのです。

人は誰もが祝福されてこの世に生まれてきて、自分の命を輝かせて生きる権利をもってはいるはず。誰もが幸せに生きていいはず。誰もが幸せに生きることができる状態を「平和」と呼びます。

長崎にとって大切な日、忘れてはならない日、語り継いでいかなければならない8月9日というこの日に、あらためて「平和」と「戦争」について考えてみましょう。

そして、『へいわとせんそう』という谷川俊太郎さんの絵本を紹介しました。見開きで「へいわ」と「せんそう」の違いが描かれています。



しかし、戦争をしている「味方」と「敵」というページになると違いはありません。最後のページはこのような絵です。



「戦争」を許さないという決意、「平和」を守りたいという願いを込めて、11時2分にしっかりと黙祷を捧げました。